

工夫の妻美しい死

奉仕の夫を勵まして

比企郡唐子村上唐子松山土木出張所勤務道路工夫金子
關次郎さん(五八)は去月廿七日行幸の御砌御道筋の道路
工夫に選ばれ二十五日から三日間道路修理に奉仕したが
同君の妻きよさん(五七)は數ヶ月前より病床にあり夫の
奉仕に上る前日頃から容態が悪化全く危篤状態に陥つた
が當日きよさんは苦しさを押し隠し氣丈にも「私の事は
心配せず無事お務を果して下さい」と夫を激勵した。

街道 異聞 産杉の由來

土佐の國で最も急流だと云はれる、奈半利川の河口に
奈半利といふ小さな町がある。こゝから東へ向つて、峯傳

同君も一家の光榮だからと看護を家族に頼み心身を清
めて出發三日間の大任を果して二十八日妻の病氣を氣づ
かひながら歸宅病床のきよさんに「無事に務めて來た、
と告げると、御苦勞様でした全く有難い事です」と感激
の涙を浮べて安堵した如く靜に死去した。

この赤心たぎる美しい關次郎さん夫婦は弔慰客を始め
近所の人々を感泣させたこの事が松山土木事務所知ら
れ所員を痛く感激せしめ早速縣に表彰方を具申する事と
なつた。

瀧口利太郎

ひに、野根町に至る舊道は、今は通行の人も少なく、營林
署の役人が、袖や木挽の人々が時たまに通る位だ。

土佐から、阿波へ通ずる南方經路としては、このコースが一番近かつたので、往昔、いつとはなしに小徑となつて通行の用に供せられる様になつたのであらう。……と思はれる。

徳川時代に入つてからは、城主が參觀交代の時通過する道路としての必要から、大いに改修せられ、野根山越六里の峻嶮も、幅員七八尺もある大道路として、すつと石を敷きつめたものらしい。今でもその跡の歴然と残つてゐる箇所が所々に見られる。その上城主の駕籠を休めるために、約一里毎に道の兩側に石垣（橋脚様のもの）を築造して、これを一里塚、二里塚と呼んでゐたさうである。

筆者は最近一度通つてみたのであるが、今はもう往年の形跡もなく荒廢してゐた。何分にも四里あまりの間、一軒の家もない鬱蒼たる森林地であるから、淋しいこと此の上もない。山中に岩佐といつて、藩政時代には十六戸の部落であり、關所のあつた所であると言ひ傳へられてゐる土地があるが、今は草に埋もれた屋敷跡があるばかりで、只一

軒の山小屋が淋しく建てられてある。

この街道に絡まる怪談！ それは土佐ではあまりにも有名な傳説である。私は眞摯なる本誌の讀者のために、一時の骨休めの意味をもつて、この街道見聞をものす所以である。

時代は天正年間に遡る。長曾我部元親が土佐國內を平定し、その軍を隣國阿波へ進めてゐたときのこと、長曾我部の家臣某の妻、故あつてこの野根山越しをしたのであつた。彼は臨月の身重をもつて、峻しい山路を登つたのである。勿論思ふ様には足が運ばなかつた。その上、佐喜ノ濱川の盡きるあたり、とある峠にさしかゝつた時俄かに産氣づいたのであつた。秋の日は暮れ易く、深い森の中へは夕陽の光が金色の線をひいて流れ込んでゐた。彼女は陣痛に堪へかねて路傍で苦しんだ。そして何よりも夜の追つて來るのを恐れたのである。

× ×

阿波に於ける長曾我部の軍は、到る所連勝の戰果を収めた。今しも戰況報告の一人の武士が晩秋の野根山街道を西

に向つて急いでゐた。山中で行き倒れてゐる婦人に出會つたので吃驚した。そして偶然にもそれは同じ家臣の妻女であつたのである。

何はともあれ、狼の住むてふこの山中で産をするといふことは、これ以上の危険は無いことであつた。武士は當惑した。……と。天の助けか程遠からぬ所に一本の老杉が目についたので、女をそのひろがつた枝の上につれて行つた。

やがて子供は生れたが、日が暮れると共に凄愴な空気が山一面を掩ふた。冷々とした夜氣の中には遠く溪流の音が風につれて聞えて来る。亥の刻(今の午後十時頃)を少し過ぎたと思はれる頃、遙かの彼方に。ウオーツ。……ウオーツ。……といふ野獸の吼える聲が聞えた。少し間を置いてまた同じ聲が聞えて来る。武士は狼が近づいて來つゝあることを知つたので、女に向つて、縦し何十、何百の狼が襲つて來るとも、自分が引受けるから決して立ち騒いではないけないと言ひ聞かせた。

程なく附近の笹鳴りがはじまつたと思ふ間もなく、一定

三疋、五疋、十疋……樹下の土を嘗めてゐる瘦身の怪獸！女は顔をそむけて一方に小さくうづくまつた。

狼の千疋づれといふのであらう。たちまち數十の狼が集つて樹上をにらんで咆哮しはじめた。……一疋の狼の背の上に別な一疋が上つた。そして其の下に又一疋が背を入れて立つたではないか。……武士は覺つた。と同時に一刀の目釘をしめした。狼は次第に高くなつて來た。……今一疋で一の枚にとゞこうとしたとき、武士の劍が電の様に流れた。ドツタン！といふ音と共に最上部に居つた奴が大地に轉落した。大刀一閃！續いて上つて來た奴もドオツと落ちた。かくして武士は十數疋の狼を斬つた。狼軍は叶はじと思つたか、中の一疋が、

『佐喜濱の鍛冶の嬢を呼んで來いッ』と言つた。

しばらくすると頭上に大釜を戴いた一人の女がやつて來た。例の背を利用して段々と樹上に押し上げられて來た。

武士はその怪女が大釜を戴いて居るので斬ることが出來な

い。ぞが怪人は目前に迫つて來た。今はこれ迄と太刀を眞向に振りかぶり、大喝一聲。必死の力をこめて峯打ちを喰はした。大釜は二つに割れて落ちた。蓬々と髪を振り亂した女の頭上に二の太刀が下りたのは、間髪を入れざる次の瞬間であつた。女はすばやく體をかはしたが額へきりつけられてゐた。三たび太刀を振り上げたとき、

『こりや敵はぬ』

といふ聲と共に怪女は飛び降りた。同時に全山崩るゝばかりの大音響が起つた。

元の静けさに還つた時は、もう附近に狼の姿は見えなかつた。梢の間から美しい星が二つ三つのぞいてゐた死の様な静けさが續いた……朝までつゞいた。

夜の明けはなれるのを待つて、武士は女を岩佐へつれて行つて預けた。一夜を明した老杉の下には狼の死體は一つも残つてゐなかつた。しかし大地はどす黒い血潮で染められてゐた。『佐喜濱の鍛冶の嬢を呼んで來い』……武士の頭に残つてゐるのはこの奇怪な一言であつた。鍛冶の嬢？

武士の頭には一脈、人間と怪狼につながる疑問が流れはじめたのであつた。

落ちてゐる血潮を辿つて山を下つた。川に沿ふて三里あまり、遂に海邊に近き佐喜濱の浦部落へ出て來たのである。

やがて鍛冶屋を訪づれた武士は『その方の家内は内に居るか』と尋ねてみた。

『はい、昨夜一寸近所へ行つての歸りがけに石につまづいて、頭を打つたので寢て居ります。』

武士は心の中でうなづいた。

『用があるから一寸これへ呼び出せ』

『はいッ。』

主人は妻の手をひいて上り框の所までつれ出して來た。

頭をぐる／＼巻いた妻女が、面を上げた瞬間！ 女は異様な目付をしたと思ふや、立つて奥へ逃れやうとした。武士は抜く手も見せず背後から斬りつけた。妻女はその儘虚空をつかむで倒れた。

『お武家様。何故に家内を殺しました。サア元の通りにして下さりませ。』

主人は怒りと驚きの中にかう叫んだのである。

『亭主。わしはお前の家内は殺さぬ、お前の妻のかたきをとつてやつたのだ。』

武士は昨夜からの一伍一什を語り聞かせ、

『やがて正體をあらはすであらうから、しばらく待つてみよう。』

と言つたが一時ばかり経過しても、それらしい兆候はなかつた。鍛冶屋はくどくどしく武士を詰問した。武士は妖怪變化の類は太陽の光に當てたならば、必ず正體を現はすといふことを聞いてゐたので、その死骸を外に出してみたが、依然として變りはなかつた。

『しまつたツ。』

今ほこれまでと覺悟をきわめた。切腹するより外に道はない……

『亭主ツ。それがしが早まつたのだ。……許してくれ。言

譯をするぞツ……』

武士は死體の側に寄つて合掌した。小刀の鞘を拂ふとしたとき、

『待つて下さいツ。』

と言つたのはたしかに亭主の聲であつた。不思議や、その前に横はつてゐる死骸は五尺にあまる狼ではないか。驚いたのは武士ばかりではない。亭主は驚愕のあまり、色を失ひガタ／＼と身をふるはせて武士に取りすがつた。

家の床下を調べさせた所、多くの人間の骨が出て來た。狼は鍛冶屋の本妻を喰つて自分がその姿に化けてゐたのであつた。

x

x

今でも鍛冶屋の屋敷跡と稱せられる所が残つて居るばかりでなく、程近き堤の上には鍛冶の嬪の墓として、苔蒸した小さな丸石が淋しく立てられてある。

このことがあつて後、幾百年、野根山中で狼のために危害を加へられた者は一人も無くなつたといふことである

それは鍛冶の癖となつた狼の主がせめてもの罪滅しのため人を損ふことをさせないのだらうと聞く。

この話は筆者が青年時代に、この野根山の岩佐で山小屋生活をしてゐた頃、柚仲間から夜につれづれに聞いた話をつゞり合せたものである。

山梨縣に於ける道路愛護運動に就て (一)

山梨縣 土木課

長期戦下に於ける銃後の各種勤勞奉仕作業は政府の國民精神總動員運動の強調と相俟つて全國津々浦々に互つて實行せられて居ることは銃後の護りの強固さを如實に物語るものとして誠に心強い限りであります。我が山梨縣に於ても昨年度より官公署、銀行會社員並に男女青年團、學校生徒に依つて多數の勤勞報國隊が結成され各種の勤勞奉仕作業が各地で實行され其の熱心な活躍振りは全く感激の外は

例の老杉は其の後暴風の爲めに倒れたが、安産のお守りとして永い年月の間に通行の人に削り取られて、今はわづかに根の方が残つてゐるに過ぎない。營林局でも此處に標札を建て、傳説産杉の所在を表示してある。

ありません。そして此のたび本縣に於ては國民精神總動員運動の一項目として全縣下に道路愛護運動を強調することゝいたしました。四月十一日を「道路愛護デー」とし舉縣一齊に道路愛護作業を実施したのであります。今之が實行に至る迄の經過實行したる成績等を掲ぐれば次の如くであります。